

豊川市国民健康保険データヘルス計画

【計画期間：平成27年度～平成29年度】

計画策定の趣旨及び背景

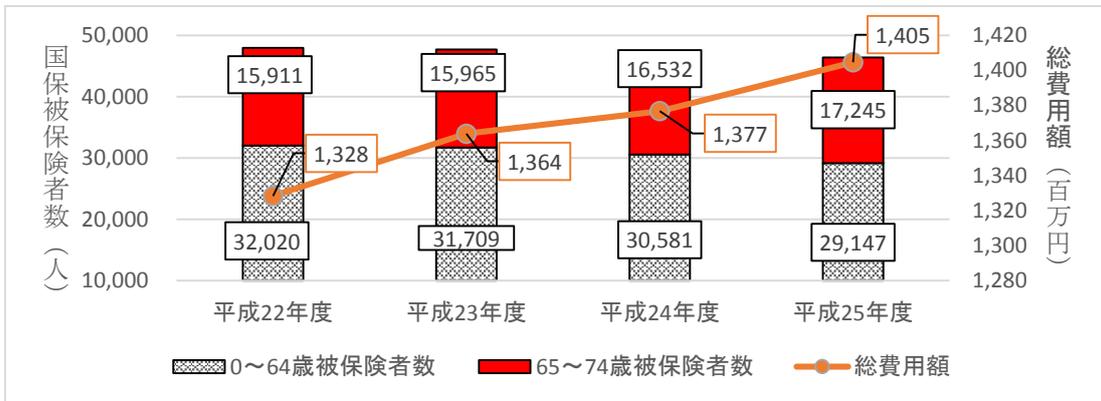
国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針の一部改正により国保保険者は、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るために、健診・医療情報を活用してPDC Aサイクルに沿った保健事業の実施計画（データヘルス計画）を策定し、実施及び評価を行うこととされました。

本計画は国民健康保険被保険者の健康の保持増進、生活習慣病の発症予防重症化予防のための保健事業を効果的に推進するために策定するものであり健康寿命の延伸、健康格差の是正、ひいては医療費の適正化に資するものです。

豊川市国民健康保険を取り巻く現状

- 国保被保険者の総数は減少傾向にありますが、65歳以上の被保険者数は増加しています。医療費の総費用額は年々増加しており、65歳以上の被保険者数の増加が、医療費の増加の要因であることが推測されます(図1)。

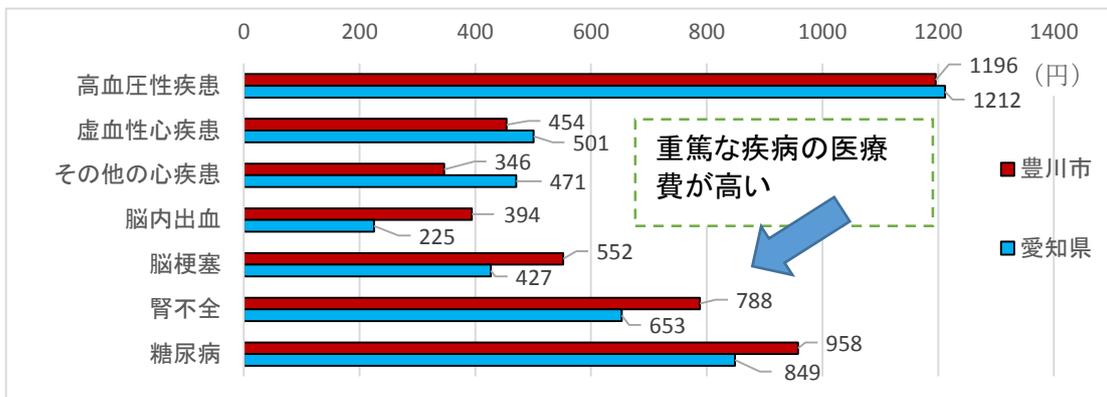
図1 国保被保険者数と総費用額



(出典：豊川市の国保)

- 脳内出血、脳梗塞、腎不全、糖尿病の1人当たり費用額は愛知県平均より特に高くなっており、これらの疾患への対策が重要となります。特に脳内出血、脳梗塞という重篤な疾患の医療費が高い反面、基礎疾患である高血圧性疾患は愛知県平均同水準であることから、疾病の重症化が進んだ集団であることが推測されます(図2)。

図2 疾病別1人当たり費用額(平成26年5月診療分)



(出典：疾病分類統計表)

- 男女共に殆どの年齢階級で愛知県平均と比較して特定健康診査の受診率が低く、特に60歳代以降で愛知県平均との差が拡大しています。健診受診による生活習慣病対策を進めるためには、健診を受診する人を増やす必要があります(図3-1、図3-2)。

図3-1 平成25年度 年齢階級別受診率(男性)

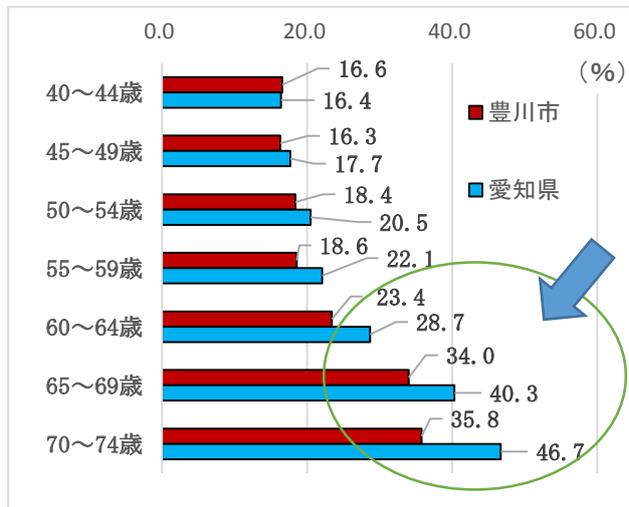
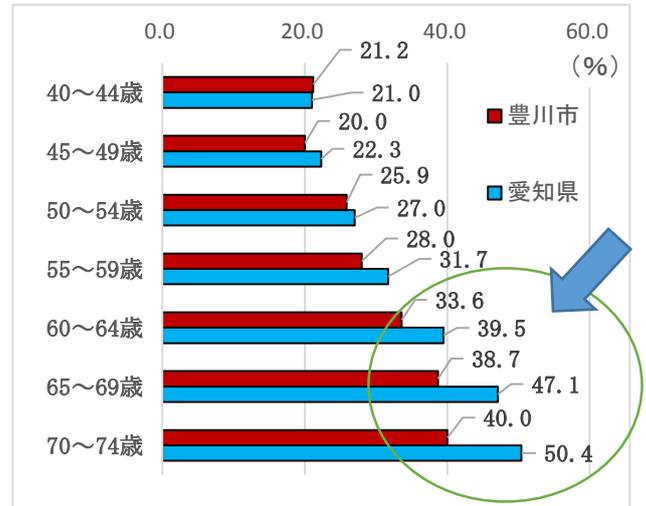


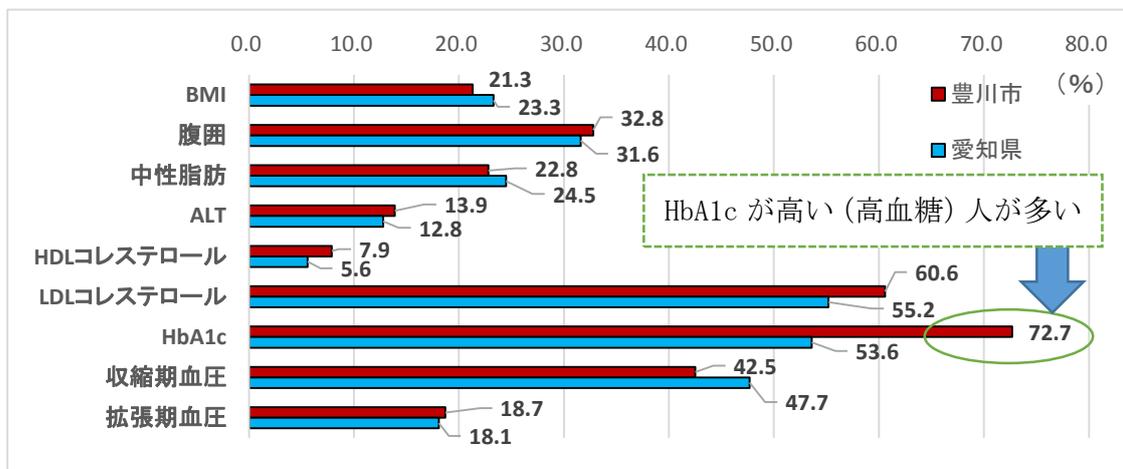
図3-2 平成25年度 年齢階級別受診率(女性)



(出典：保険年金課資料)

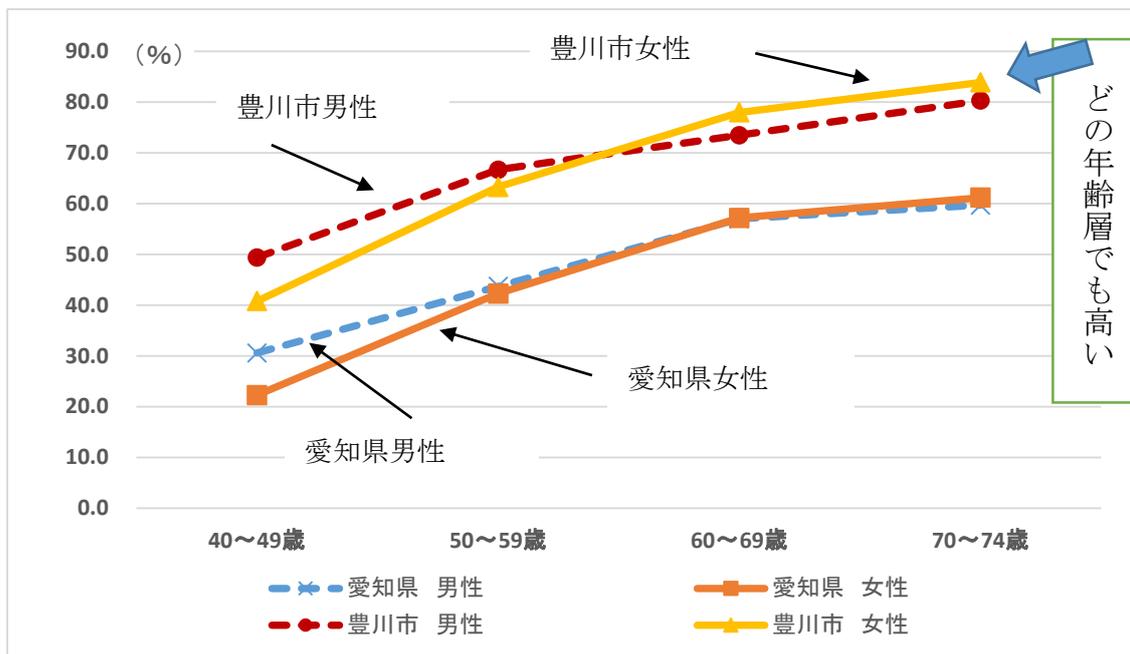
- 特定健康診査受診者の72.7%がHbA1cの有所見者であり、愛知県平均より大幅に高い状況です。また、年齢別でも、全ての年齢層で愛知県平均より高く、豊川市国保の被保険者は若い頃から高血糖の人が多く特徴がみられます。そのため、若い頃からの生活習慣改善による予防対策が重要となります(図4、図5)。

図4 平成25年度 特定健康診査有所見者率



(出典：AICube)

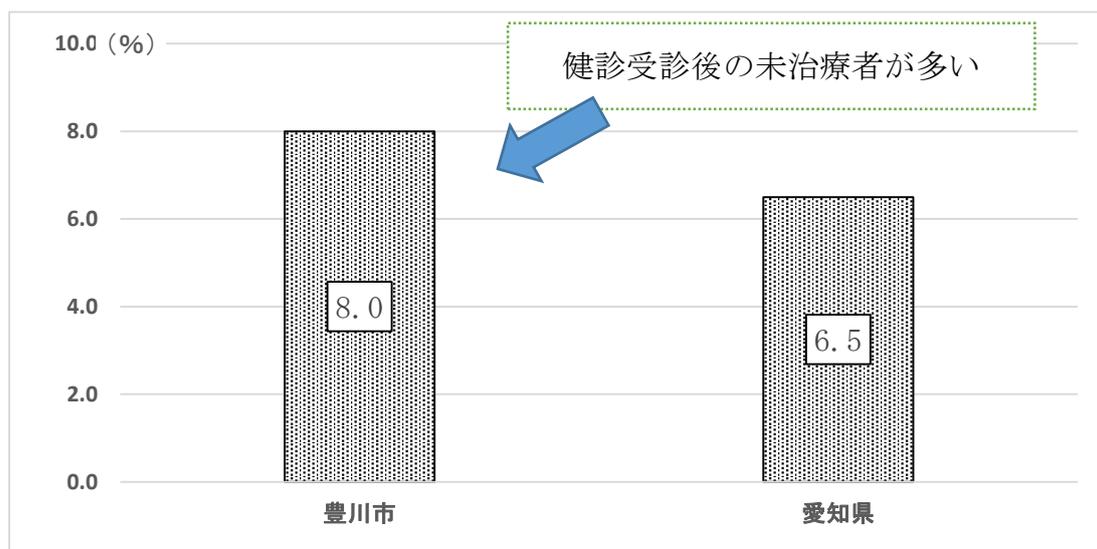
図5 平成25年度 特定健康診査 年齢階級別 HbA1c 有所見者割合



(出典：AICube)

- 特定健康診査受診後の未治療者率は8.0%と愛知県平均より高くなっており、健診受診後に適切な医療に結びついていないことが推測されます(図6)。

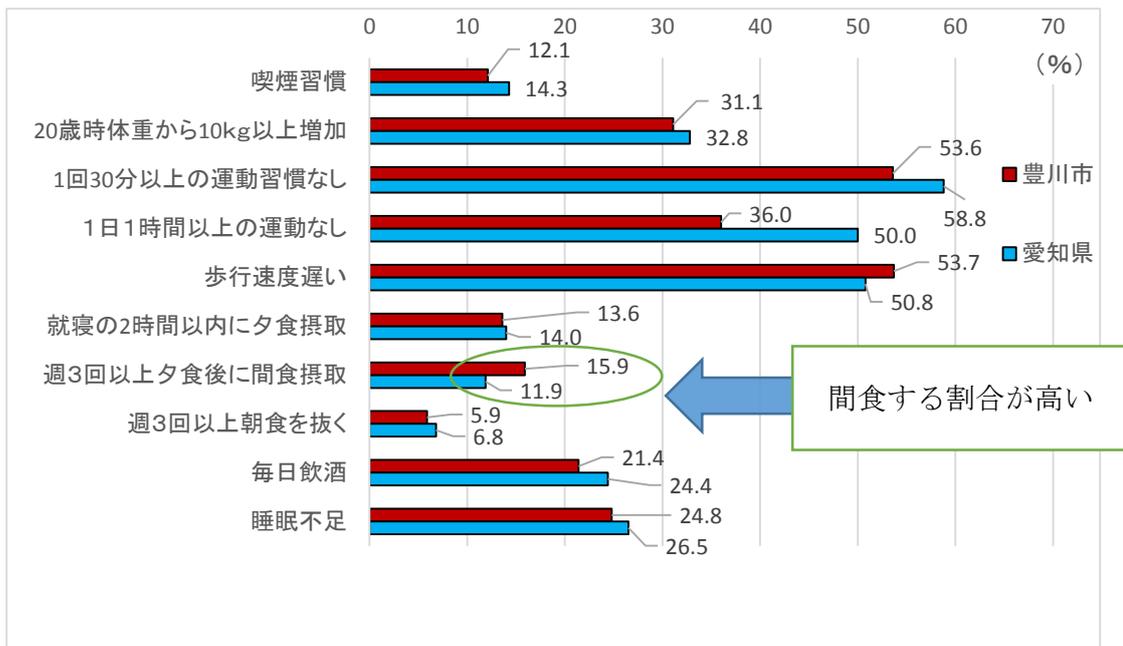
図6 平成25年度 特定健康診査後の未治療者率



(出典：国保データベース)

- 特定健康診査受診者で「1回30分以上の運動習慣なし」「1日1時間以上の運動なし」の割合は愛知県平均より少なく、一方「週3回以上夕食後に間食摂取」と回答した割合が愛知県平均より高くなっています。
(図7)

図7 平成25年度 特定健康診査質問調査票の状況



(出典：国保データベース)

- 日常の保健活動の中における住民の声や地域の状況

- ・「昨年の健診結果を覚えていない」
- ・「健診結果の見方がわからないので、みていない」

住民の声



「病院で薬をもらっているが、何の病気かよくわからない」

日常の活動の中で職員が感じた事



- ・果物を箱単位で購入したり、食後に果物を始めとするデザートをよく食べる習慣がみられる。
- ・地域の集会などでお菓子の持ち寄りがよくある。

豊川市国民健康保険の健康課題

健診・医療等の情報の分析結果に基づき、介入により予防が可能で、かつ優先度の高い健康課題を以下の3つとし、保健事業に取り組んでいきます。

健康課題

- 特定健診の受診率が低く、特に60歳代以降の受診率が低いことから生活習慣病のリスクが高い人が放置されている可能性が高い。
- 特定健診受診後に受診勧奨対象となったが未治療となっている人が多くその背景として早期治療の必要性の認識不足がある。また、脳血管疾患、腎不全の1人あたり費用額が高く、重症化が懸念される。
- 健診結果から若年世代から血糖値が高く、その背景として食習慣の問題が疑われる。



数年後に実現しているべき「改善された状態」

目的

若年世代から健康意識を高め、被保険者が健診受診の必要性を認識することで、受診行動をおこし、健診結果に応じた保健行動を取ることができる。

健康課題に対応した主な保健事業

目標	成果目標	目標を達成するための保健事業						
		保健事業名	事業目的・対象者	事業内容	実施主体	平成27年度	平成28年度	平成29年度
60歳代以降の受診率向上	新規で国保加入した60歳以上の受診率 平成27年度を基準値として平成29年度までに10ポイントアップ	事業所出前講座(新規)	目的:健康意識の啓発、退職後の健康づくり事業の周知 対象者:退職前の事業所職員	退職後の健康管理、健診の重要性について健康教育を行う。	保健センター 保険年金課 豊川保健所	2事業所新規実施	4事業所実施	6事業所実施
		健康マイレージ事業(新規)	目的:市民が気軽に健康づくりに取り組み、良好な生活習慣を継続できるよう支援する 対象者:18歳以上の市民	健康づくりに取り組み、ポイントをためることで、協力店でサービスを受けることができる。	保健センター 愛知県	・マイレージ事業を被保険者に周知 ・特定健診受診にポイント設定 ・企業・商工会に趣旨説明地域の協力店の拡大	参加率等をみて、ポイント設定等体制検討 →	
		電話による特定健診受診勧奨(既存)	目的:特定健診受診促進 対象者:①前年度健診受診した者で今年度未受診の者 ②4月に新規に国保加入した未受診者	電話による受診勧奨及び未受診理由の把握	保険年金課	継続	対象者に②を追加して拡大実施 →	
		はがきによる特定健診受診勧奨(既存)	目的:特定健診受診促進 対象者:4月に受診券を発行した後未受診の者	前期集団健診実施後にはがきによる受診勧奨	保険年金課	継続	対象者を継続的未受診者、前年度未受診者で勧奨時期を分けて実施 →	
自分のHbA1cの意味を理解し、生活習慣の見直しと改善に取り組むことができる	受診勧奨対象者が医療機関を 受診した率50%以上	特定健診受診者フォローアップ(新規)	目的:重症化予防 対象者:特定健診の結果、医療未受診で受診勧奨判定値以上の者	電話、家庭訪問による受診勧奨	保険年金課	・医師会への事業説明と協力依頼 ・血圧:Ⅲ度高血圧 ・HbA1c:7.4以上の者を実施	実績を評価し、対象者を拡大 →	
		特定健診受診者結果説明(新規)	目的:特定健診受診者が健診結果を理解し、自分の健康管理に役立て、適切な保健行動がとれる。 対象者:特定健診集団健診受診者	健診当日に検査値の見方を個別に説明	保険年金課 保健センター	・指導内容の検討 ・HbA1cの理解についてのアンケート調査		
		健診結果相談会(既存)	目的:特定健診受診者が健診結果を理解し、自分の健康管理に役立て、適切な保健行動がとれる。 対象者:特定健診集団健診受診者	個別相談	保健センター 保険年金課 豊川保健所	継続	指導内容の検討・指導用リーフレットの改善検討	対象者通知内容・開催形態の見直し
HbA1c啓発事業(新規)	特定健診受診者で結果説明した者のHbA1c改善率 平成27年度に結果説明した者でHbA1c 6.5以上の割合を10ポイントダウン	目的:HbA1cについて理解し、自分の生活習慣を見直し改善に努めることができる。						
		(新規) HbA1c啓発用リーフレット作成 対象者:一般市民 活用方法:保健センター、保険年金課、介護高齢課の市民向けの事業や事業所への健康教育等で活用できる内容とする。		保険年金課 保健センター 介護高齢課	リーフレット案の検討・作成	活用状況の把握と内容の見直し →		
		(既存) ・とよかわ健康づくり運動啓発 ・健康教室 ・健康づくり推進活動支援事業 対象者:一般市民及び健康づくりボランティア 内容:健康教室等の保健事業やイベントで周知		保健センター	実施			
		(既存) 対象者:特定健診受診者(基本健康診査受診者含) 内容:健診結果通知時に周知		保険年金課 保健センター	実施			
		(既存) 対象者:65歳これから講座参加者 介護予防教室参加者 内容:教室参加者に周知		介護高齢課	実施			
		糖尿病・高血糖予防講演会(生活習慣病予防教室)(既存)	目的:糖尿病や血糖に関する理解を深め、生活習慣の改善に自ら取り組める。 対象者:特定健診結果要指導判定値以上の者及び希望者	医師による講演会	保健センター 保険年金課	実施		
		糖尿病予防セミナー(新規)	目的:糖尿病や血糖に関する理解を深め、生活習慣の改善に自ら取り組める。 対象者:特定健診結果要指導判定値以上の者及び希望者	保健師、管理栄養士、運動指導士による集団教育	保健センター 保険年金課	実施時期・実施プログラム検討	実施結果により、実施時期・実施プログラム検討 →	